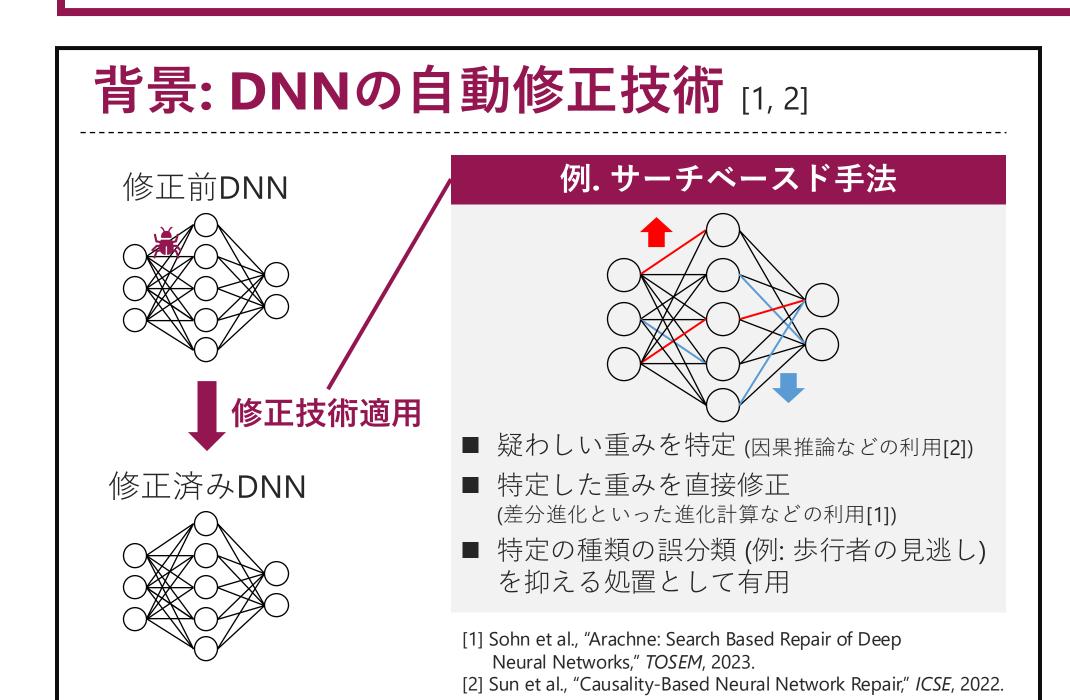
Repairs and Breaks Prediction for Deep Neural Networks

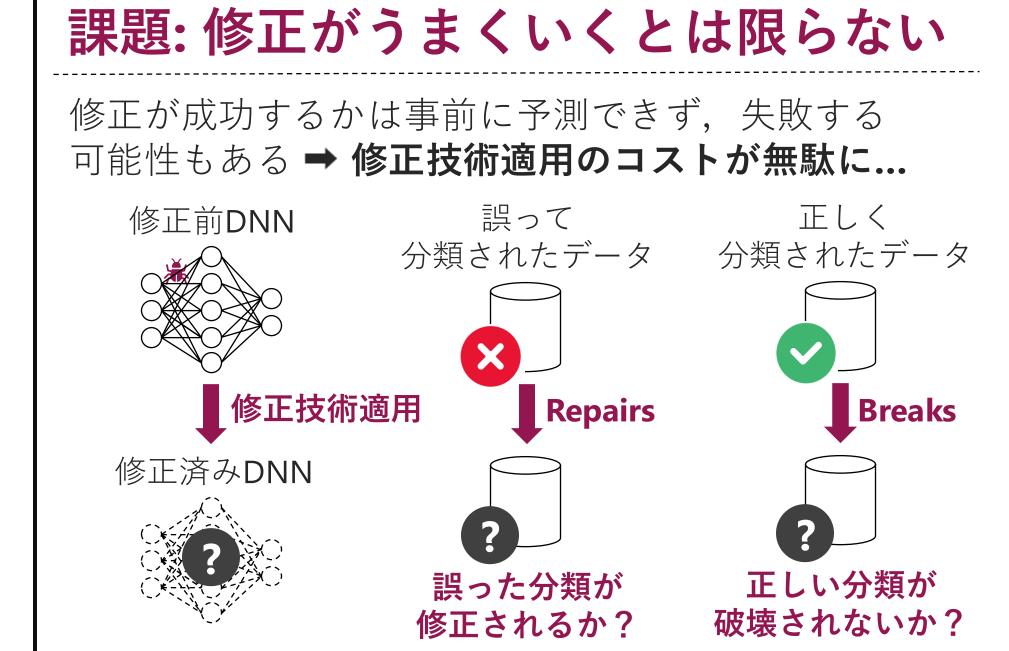
Accepted to TOSEM at Oct, 2024!

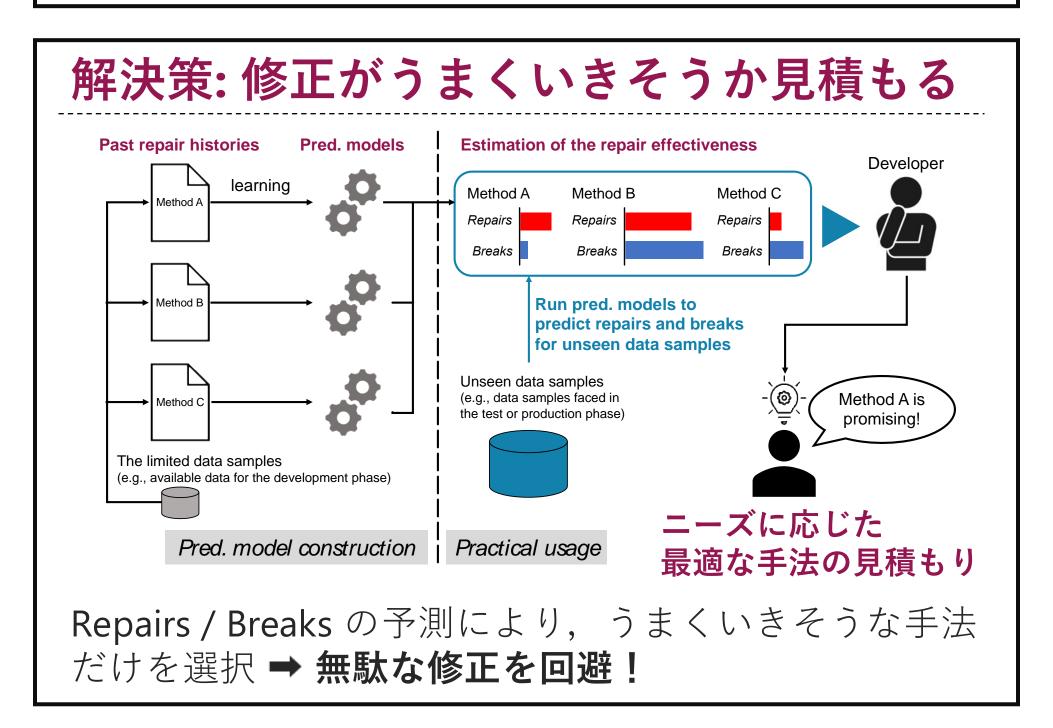


石本優太 (九州大学 システム情報科学府博士課程2年), 近藤将成 (九州大学),

馬雷(東京大学/University of Alberta), 鵜林尚靖(早稲田大学), 亀井靖高(九州大学)







手法: 修正前に取得可能な4つの説明変数を使用してRepairs / Breaksの予測を行う Aカデータ 修正前DNN 出力の確率分布 Pi Entropy = - ∑i=1 Pi log Pi Piの最も大きい値と 2番目に大きい値の差 Loss LPS Entropy PCS

調査1:4つの説明変数の傾向の違いの分析 ▶Non-repairedとRepaired (Non-brokenとBroken) でどう違うか?

調査2:見積もりによる時間削減効果の検証

■Repairs / Breaks の予測により修正適用時の開発者の時間を削減できるか?

実験対象

修正手法

■ CARE[2] Apricot[3], Arachne[1], APRNN[4]

データセット

- 3つのテーブルデータセット (Credit, Census, Bank)
- 3つの画像データセット (Fashion-MNIST, CIFA10, GTSRB)
- 2つのテキストデータセット (IMDB, RTMR)

モデル

- FNN (テーブルデータセットに対して)
- CNN (画像データセットに対して)
- RNN (テキストデータセットに対して)

[3] Zhang et al., "Apricot: A Weight-Adaptation Approach to Fixing Deep Learning Models," *ASE*, 2019. [4] Tao et al., "Architecture-Preserving Provable Repair of Deep Neural Networks", *PLDI*, 2023.

調査1: 説明変数の傾向の違い

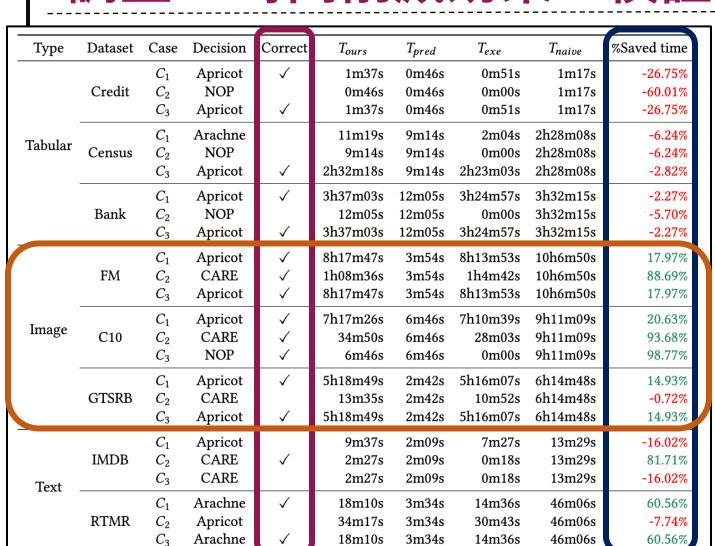
各修正手法,データセット,モデルに対して, 4つの説明変数の平均値の傾向の違いを分析

	repaired	non- repaired	broken	non- broken
PCS	Low	High	Low	High
LPS	High	Low	Low	High
Entropy	High	Low	High	Low
Loss	Low	High	High	Low

発見1-1: 曖昧な予測で間違ったが, 正解ラベルへの 予測確率が比較的高かったサンプルは修正されやすい

発見1-2: 曖昧な予測にもかかわらず正解したサンプルは誤分類に変わりやすい (破壊されやすい)

調査2: 時間削減効果の検証



66.7% (16/24)

我々の手法がない場合 (=良さそうな手法を事前に 見積もれない場合) に比べてどれぐらい時間削減 できるかを調査

発見2-1: Repairs / Breaksの予測による最適な手法の見積もりは, **16 / 24** のケースで正しい

発見2-2: 我々の手法を使うことで, 修正適用時の時間は平均で **16.29%** 節約できる

発見2-3: 我々の手法は, 特に

16.29%

時間のかかるタスク (画像分類タスク) において有効

その他の実験

正解・不正解以外の観点 (**頑健性, 公平性, 安全性**) に おける Repairs / Breaks の 定義とその予測

未知の修正手法に対しても うまくいきそうか見積もれるか の調査

(修正手法Aのための予測モデルが別の手法Bにも適用できるか)

予測モデルの性能向上 (アンダーサンプリング, SMOTE)